R2・2・5（水）
36よろず懇話会
関谷勇

仏教入門 『般若心経（はんにゃしんぎょう）』の謎 を解く

――なぜ、日本人の心を魅きつけるのか――

まず般若心経とは・・・

写経の定番、お遍路さんのお経など・・・日本における仏教のほとんどは大乗仏教であり、「般若心経」はその根本思想である「空」の理論を説いたもの・・・本文だけだと**262 文字**のまことに短い経典だがいたって難解である・・・しかしながら、あらたかな霊験は現世利益的な功徳も凝縮されていると信じられてきた「般若心経」は、最も日本人が親しみを感じ、奈良の昔から永く読誦し続けてきた経典と云って良い。それだけに、日本人の信仰心を涵養したり、祈りの対象になったばかりでなく、日本の文化、芸能、習俗などにも、実に巨大な影響を及ぼしている。日本の歴史や伝統の形成に深くかかわってきたと云える。国民的信仰を獲得した経典、まさに仏法の世界に屹立する金字塔である。　（PHP 文庫　百瀬明治 S16 生　）

「般若心経」の成立過程・・・

釈迦は紀元前 5 世紀頃で文字があったかどうか定かではない。その約 500 年後あたりから興った大乗仏教は数十世紀（BC100-AC1200）にわたり膨大な量の経典が世に作りだしたが、そのなかでも「般若経」は先頭を切って制作され中核をなしている。その膨大な般若経典群の全容を知ろうとしても不可能だが、その膨大にして複雑な般若経典群の精要を抽出して、わずか 262 文字にまとめたのが般若心経なのである。漢訳されたのが 3 世紀なので、その成立の年代は紀元後１～2 世紀とみなされているが般若心経を作成した人物の名前は伝わっていない。興味深いことにインドにも現存しないという最古のサンスクリット（梵語）写本は日本に存在している。中国で最初に般若心経の漢訳した人物は「支謙（しけん）」という。5世紀に「鳩摩羅什（くまらじゅう）」（呪経（しゅぎょう））ついで唐初期 649 に「玄奘三蔵」が登場する。その後にも心経の漢訳は多く出たが、玄奘の心経が読みやすい名文で（新訳といわれる）突出して仏教圏に広く普及していった。 奈良の薬師寺は玄奘を鼻祖（びそ）（元祖）として仰いでいる。

「般若心経」の日本の受容の歴史・・・

◇飛鳥時代・・・聖徳太子は「般若心経」を入手していたかどうか？証拠はない。
　もしも手にしていたら鳩摩羅什くまらじゅうの旧訳であったろう・・・
　玄奘の新訳は、聖徳太子が亡くなって 20 年後（649）のことであった。

◇奈良時代の怪僧・玄昉・在唐 18 年・膨大な経典を持ち帰ったが 735「般若心経」もあったかも・・・
　東大寺の写経所 738-771、 正倉院の天平写経の装飾心経、淳仁天皇の詔勅 758 にいわく「皆ことごとく摩訶般若波羅密多を念誦すべし」と、心経会（天災が起たり疫病が流行した時、心経を読誦する法要）や大量の写経が存在する「隅寺心経」など「般若心経」ブームが興った。

◇平安時代に・・・空海は、嵯峨天皇の心経写経の供養を契機に**「般若心経秘鍵」**を著して、死者の鎮魂や成仏に、呪術的要素から密教経典とした。最澄の比叡山も「般若心経」を重用したので、朝廷公家一般庶民まで浸透度を増した。
　また埋経・装飾経の主役でもあった、国宝・平家納経など。

◇鎌倉新仏教（日本の宗教革命）は「般若心経」を受け入れなかった。浄土真宗の阿弥陀如来「念仏他力」は、般若心経の「自力主義」とは相いれなかったし呪術的な密教に反発した。また日蓮宗は「法華経」を唯一の正法と仰いだため「般若心経」の余地がなかった。しかし両者とも「般若心経」を否定している訳ではない。
　ただし禅宗は「般若心経」と密接不二の結びつきをなした。

◇室町時代に・・・朝儀が断絶したが、天皇の宸筆で写経が残されている、禅僧一休の心経信仰の貢献した、
　　茶の湯・能狂言など中世芸能の理念形成の培養基となった。

◇戦国時代に・・・信長にみる敦盛の無常観、修験道において現世利益的な功徳と霊力から採り入れた

◇江戸時代に・・・泰平の時代、国民的文化の形成に「絵心経」が登場した、剣道の理念化にも採り入れた

◇明治時代に・・・廃仏毀釈で仏教は廃り、神社の祝詞（のりと）祓詞（はらいことば） がとって代わる。

◇現代に生きる・・・奈良薬師寺の「般若心経」の百万巻写経勧進伽藍復興をなした。お遍路さんとともに生きている。
　　→ 時代が変わろうが「空観」が仏教の原点であるということには変わりないようである。

横書きの
般若心経

サンスクリット語の般若心経：最古の梵字写本 7-8 世紀（法隆寺貝葉（ばいよう）心経）

まかはんにゃはらみたしんぎょう
摩訶般若波羅蜜多心経

262 文字

後秦三蔵法師
鳩摩羅什訳 AC403

唐三蔵法師
玄奘訳 AC649

叡智の完成についての経典・あらすじは５つ構成・空海の秘鍵

①イントロ

かんじざいぼさつ　ぎょうじんはんにゃはらみったじ　しょうけんごうんかいくう　どいっさいくやく
観自在菩薩　行深般若波羅蜜多時　照見五蘊皆空　度一切苦厄

②呼びかけ a　空とは

しゃりし　しきふいくう　くうふいしき　しきそくぜくう　くうそくぜしき　じゅそうぎょうしきやくぶにょぜ
舍利子　色不異空　空不異色　色即是空　空即是色　受想行識亦復如是

呼びかけ b 一切が空である

しゃりし　ぜしょほうくうそう　ふしょうふめつ　ふくふじょう　ふぞうふげん
舍利子　是諸法空相　不生不滅　不垢不浄　不増不減

呼びかけ c　小乗仏教の否定

ぜこくうちゅう　むしき　むじゅそうぎょうしき　むげんにびぜっしんい　むしきしょうこうみそくほう　むげんかい　ないしむいしきかい
是故空中　無色　無受想行識　無眼耳鼻舌身意　無色声香味触法　無眼界　乃至無意識界

むむみょう　やくむむみょうじん　ないしむろうし　やくむろうしじん　むくしゅうめつどう　むちやくむとく　いむしょとくこ
無無明　亦無無明尽　乃至無老死　亦無老死尽　無苦集滅道　無智亦無得　以無所得故

③功徳が説かれる

ぼだいさった　えはんにゃはらみったこ　しんむけいげ　むけいげこ　むうくふ　おんりいっさいてんどうむそう　くきょうねはん
菩提薩埵　依般若波羅蜜多故　心無罣礙　無罣礙故　無有恐怖　遠離一切顛倒夢想　究竟涅槃

さんぜしょぶつ　えはんにゃはらみったこ　とくあのくたらさんみゃくさんぼだい
三世諸仏　依般若波羅蜜多故　得阿耨多羅三藐三菩提

④すべては呪（真言）であると宣言される

こちはんにゃはらみった　ぜだいじんしゅ　ぜだいみょうしゅ　ぜむじょうしゅ　ぜむとうどうしゅ　のうじょいっさいく　しんじつふこ
故知般若波羅蜜多　是大神呪　是大明呪　是無上呪　是無等等呪　能除一切苦　真実不虚

⑤秘密の呪（真言・マントラ）が紹介される

こせつはんにゃはらみったしゅ　そくせつしゅわつ
故説般若波羅蜜多呪　即説呪曰

ぎゃていぎゃてい　はらぎゃてい　はらそうぎゃてい　ぼじそわか　はんにゃしんぎょう
羯諦羯諦　波羅羯諦　波羅僧羯諦　菩提薩婆訶　般若心経

ガテー：彼岸に往くよ！吉祥あれ！

雑学

絵心経とは、読んで字のとおり絵であらわした般若心経のこと。江戸時代、般若心経の功徳にあやかりたいという「字の読めない人々」の願いをかなえようと工夫されたものである。

まず摩訶には、逆さまにした釜の絵をあてる、般若は、能などで使う般若の面である、波羅には、腹の絵をもってくる、蜜多は農具の箕みと田んぼの絵をつなげて箕田みったと読ませる、心経の部分に来るのは、神前にたてる神鏡しんきょう。という按配で当て字ならぬ当て絵で表記されたもので重宝がられてベストセラーとなった。
江戸時代には、般若心経への信仰は、天皇公家から農工商にまで広がって定着した。

サンクリット原典の邦訳

般若心経（岩波文庫）中村元 1912-1999 より抜粋

中村元とは、日本の仏教学者の第一人者　→松江に記念館あり

（注）漢文の書き下しは必ずしも日本の言葉とは云い難いため・・・サンスクリット原典からぴったりと理解できるような言葉で邦訳をしたもので、はじめて仏教の経典を眼にするという方にも理解できるようにと試みたので、おすすめしたい・・・中村元

「全知者である覚った人に礼したてまつる」
求道者にして聖なる観音は、深遠な智慧の完成を実践していたとき、存在するものには 5 つの構成要素があると見きわめた。
しかもかれは、これらの構成要素がその本性から云うと、実体のないものであると見抜いたのであった。
シャーリプトラよ、
この世においては、物質的現象には実体がないのであり、実体がないからこそ、物質的現象で有り得るのである。実体がないからといっても、それは物質的現象を離れてはいない。また物質的現象は、実体がないことを離れて物質現象であるのではない。これと同じように感覚も表象も意志も知識も、すべて実体がないのである。
シャーリプトラよ、
この世のおいては、すべての存在するものには実体がないという特性がある。生じたということもなく、滅したということもなく、汚れたものでもなく、汚れを離れたものでもなく、減るということもなく、増えるということもない。
それ故に、シャーリプトラよ、
実体がないという立場においては、物質的現象もなく、感覚もなく、表象もなく、意志もなく、知識もない。眼もなく、耳もなく、鼻もなく、舌もなく、身体もなく、心もなく、かたちもなく、声もなく、香りもなく、味もなく、触れられる対象もなく、心の対象もない。眼の領域から意識の領域にいたるまでことごとくないのである。
さとりもなければ、迷いもない、さとりがなくなることもなければ、迷いがなくなることもない。こうしてついに、老いも死もなく、老いと死がなくなることもないというにいたるのである。苦しみも、苦しみの原因も、苦しみを制することも、苦しみを制する道もない。知ることもなく、得るところもない。それ故に、得るということがないから、諸の求道者の知恵の完成に安んじて、人は心を覆われることなく住している。心を覆うものがないから、恐れがなく、顛倒した心を遠く離れて、永遠の平安に入っているのである。
過去現在未来の三世います目覚めた人々は、すべて、智慧の完成に安んじて、この上ない正しい目覚めを覚り得られた。それ故に人は知るべきである。智慧の完成の大いなる真言、大いなるさとりの真言、無上の真言、無比の真言は、すべての苦しみを鎮めるものであり、偽りがないから真実であると。その真言は、智慧の完成において次のように説かれた。
ガテー　ガテー　パーラガテー　パーラサンガテー　ボーディ　スヴァ―ハー
（往けるものよ、往けるものよ、彼岸に往ける者よ、彼岸に全く往けるものよ、さとりよ、幸あれ。）

「呪」じゅ：まじなう、のろう　：『般若心経』では、梵語「マントラ」の訳語、
「マントラ」とは、「宗教的儀式に用いられる神歌」中村元

色不異空
空不異色
色即是空
空即是色

―――誰でも知っている有名なくだり―――

「色」（**この世の形のあるもの**）は、「空」と異なるものではない、
「空」（**実体のないもの**）は「色」と異なるものではない。
すなわち「色」は「空」であり、「空」は「色」だ。
（言い換えれば）この世の形のあるものや物質は変化し続ける現象で、
固定的な存在ではありません。変化しつづけるが故に、現象として見えるのです。

摩訶般若波羅密多心経――摩訶は「大の意」、**智慧の完成の心（真言）という経典**
「般若」は梵語（プラジュニャー）の音訳、人間が真実の生命に目覚めたときにあらわれる根源的な叡智のこと、
普通にいう判断能力の分別知とは違った特別な智慧のため、般若と音訳のまま用いられる。「波羅密多」
（パーラミター）は、完成に至る、彼岸に渡ると云う意味です。
※この経典は般若諸経典の教えの精髄簡潔に述べたもの、その趣意はありとあらゆるものの「空」を説くことに尽きている
色　ルーパ――物質的現象としての存在するもののこと。「形のあるもの」を意味する。
空　シューニア――「なにもない状態」というのが原意である。インドの数学で「ゼロ」を意味する。

般若心経のキーワード「空」の思想

（ネットから抜粋したもの）

般若心経は、般若諸経典の教えの精髄・真髄・神髄・心髄を簡潔に述べたもの、その趣意はありとあらゆるものの「空」を説くことに尽きる。ただし「空」とは釈迦の直接の言葉ではない、釈迦の悟りはことばにあらわせないからです。その初期仏教に対抗して１－２世紀に大乗仏教が興り膨大な経典を書かれた、そこから「般若波羅蜜多」という革新的な思想が生まれ、そこから「空」という言葉が漢訳され生まれ、「空」は増殖し成長を続けた。

般若心経といえば、「空」を最も大事な言葉としています。
その意味をそのままに受け止めれば「なにもない」ということになります。
でも虚無とは違うので混同してはいけません。これを理解しやすくするためには、仏教の発祥の地であるインドで生まれた数字の「ゼロ」について考えると良いでしょう。
「ゼロ」は、存在しないものではなく存在するものです。存在と非存在が同時に両立することのできるものです。

その意味を踏まえて般若心経には「色即是空」という言葉を見てみましょう。この色というのが形のあるものを意味しています。形を持っているものは実体をもたないもので、いろいろな条件のもとで存在しているように感じているということです。実際にあるように思えるお金や家等の物質も、死や病気などによる苦しみも、実体がないもので、人がそのように感じているだけだというのです。実態のないものを認識することが苦しみのもとになるのであれば、それに悩む心から解き放たれれば、苦しいと悩むことはなくなるということを教えています。

牧師から見た般若心経（実業之日本社）抜粋
牧師・大和昌平・1955 大阪市生

縁起説とは相対性理論のことである。
縁起＝空　同義語

1、般若心経人気はコンパクトなのに仏教の深淵さを味あわせてくれる経典である。
2、仏教の「愛（渇愛）」とキリスト教の「愛」が意味するところとは違う
3、ブッダの「覚り」とイエスの「救い」の違い・・・・
4、般若心経の「空」と聖書の「空」は別物である・・・
5、玄奘は本当に般若心経を訳したのか？
　偽経ではないか→鳩摩羅什クマラジュ→＜玄奘が還梵＞→サンスクリット語のテキストに還元
6、玄奘は熱烈な「慈悲と救済」の観音信奉者であった、よって冒頭に「観自在菩薩」を登場させた。
7、私たち日本人は「空」をもって言い直された仏教の無常観にどれほどの影響を受けてきたのでしょうか。
8、仏教は「心」の宗教である。般若心経は心を見つめる経典である。マントラを唱えるとは、日常生活から滲み出てくる不安や苦悩を見つめることです。自分にとっての「空」を追い求めることです。
そして最後には、涅槃に入ることが目的です。

般若心経（NHK100 分名著）抜粋
佐々木閑・1956 生・花園大学教授

「釈迦の仏教」という概念 vs 大乗仏教「般若（心）経」

日本人にとって最もなじみの深いお経といえる『般若心経』。「空」とは何か？「色即是空」のほんとうの意味とは・・・。その実体は「釈迦の仏教」とは異なり、自らが仏へと至る“神秘力”を得るための重要なファクターだった。わずか二百六十二文字に、般若心経の神髄を表現したとされる”” “呪文経典”である。「釈迦の時代の教えを否定することによって釈迦を越えようとしている経典」でもある。

釈迦の時代の「空」と大乗仏教の「空」とは同じではありません。ここが重要です。釈迦が構築した世界観を「空」という概念を使うことによって無化し、それを越えるかたちで、さらなる深遠な真理と新しい世界観を提示したのです。これが「般若心経」において「空」がことさらに重視された理由です。釈迦はこの世の事物は基本要素によって構成され、その要素間の因果則によって動いていくと言ったが、それは低いレベルの理解である。本当は、釈迦の言う基本要素自体も、実体をもたない架空の存在なのである。もっと超越的な法則によって動いている。それが「空」なのである。般若心経はそのように、この世界は人知でとらえがたい“神秘的”な形で存在しているのだと考えたわけです。このような漠然としたものを含みこむことによって、本来は自己修練の道であった仏教が、神秘の上に成り立つ宗教へと変化したのです。大乗仏教では、「お釈迦様がおっしゃったことは立派だけれども、お釈迦様のように深い知性で世界を見、論理でものごとを突き詰めることは難しい。人間は情緒で世界を見、感情でものごとを納得することだってあるのだ」と考えたのかもしれません。「見えない力」を信じる、「見えない力」を味方にする、「神秘」は心のパワーを生み出すのです。

暗号は解読された・般若心経（貢献社）抜粋
「超思考シリーズの著者」岩根和郎・1943 生

「空」とは《宇宙の理念》であり『超実体』である
＜時間軸＞を超越した多元構造である
仏教求道者が求める「究極の存在」である

「空」は《宇宙の根源》であり《宇宙の理念》である。時間軸を超越した高次元の「場」としての「超実体」である。まさにそれが空という全肯定の実在であり、完全なる存在であり、もって般若心経の「空」の概念も明確になる。

仏教界の「定説」では、虚無的世界を説き「自分（私）などというものは存在しない」とか「実体が無い」とは、唯物論的であり、無神論的であり過ぎて、これでは、まるで宗教にならない。ましてや救いにはならない。何も無いから苦厄も無いという、虚無思想の極致である。ここでの般若心経は、「実体の無い観音様」が「実体の無い空」を説いていることになる。よって、意味のある説明にならない。「空」は実体が無いのではなく「超実体」以外何物でもない。三つの「空」の概念（空中・空相・空性）は「多元理論」のおける「超実体」とする。　　→人類史に残る名著であると絶賛（献文舎の編集者）

[般若心経・事典から抜粋]　空とは超越した常住の状態・相対的な価値を超越した状態である。

般若心経事典（鈴木出版）抜粋
米澤嘉康 1964 生　大正大学講師

「般若心経」は「偽経」であるという仮説の検証
●玄奘訳以前に、玄奘訳とほぼ同じ般若心経があった！

〇空の教示『二種類の空』 五蘊皆空の「空」は形容詞 or 述語、（色不異空）（色即是空）（諸法空相）（是故空中）の「空」は抽象名詞、と梵語が異なっている。

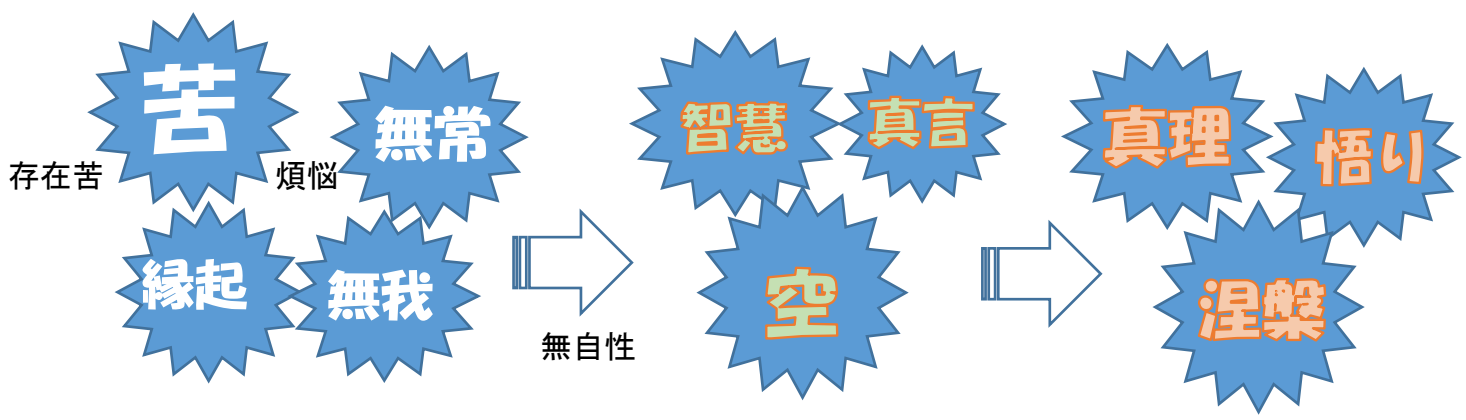
〇＜是故空中＞以下では「無～」とあらゆる事物の教えの存在が否定されている。ここで「無～」といわれるのは、あくまでも般若波羅蜜多の行を完成し、般若の智慧が完成されて「すべては空である」と認識する理解が前提となっている、決して初期仏教を以来の教えを（法）を否定しているわけではない。

〇「阿耨多羅三藐三菩提」とは、般若経と対応してみると「仏道」のことと考えられる。般若心経では多くの項目が省略されているから注意。

〇般若心経は極めて短い経典である。般若心経は「空を説く経典」というよりも「般若波羅密多を説く経典」というべきであろう。一方で、マントラ（真言）（呪）を含む呪術を説く経典でもある。

〇日本では一般的に使われている「流布本」の「般若心経」は、玄奘が翻訳したと考えられている。玄奘は「西遊記」の三蔵法師のモデルになった人物で中国仏教の訳経史上、屈指の翻訳者といえよう。しかしながら、実は、玄奘が「般若心経」を訳す以前に、ほぼ同じ「般若心経」のテキストが存在していたと推測できるのである。そうした状況証拠をまとめた。

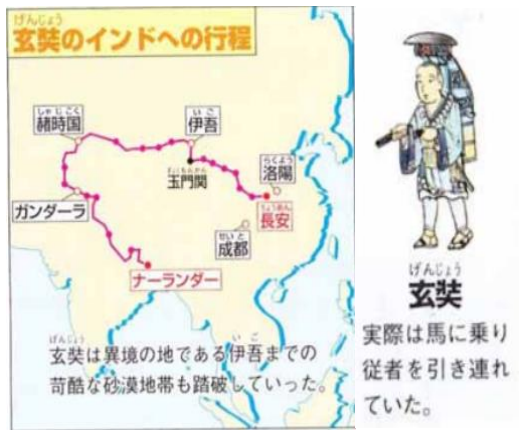
仏教**概念図**イメージ関谷作成

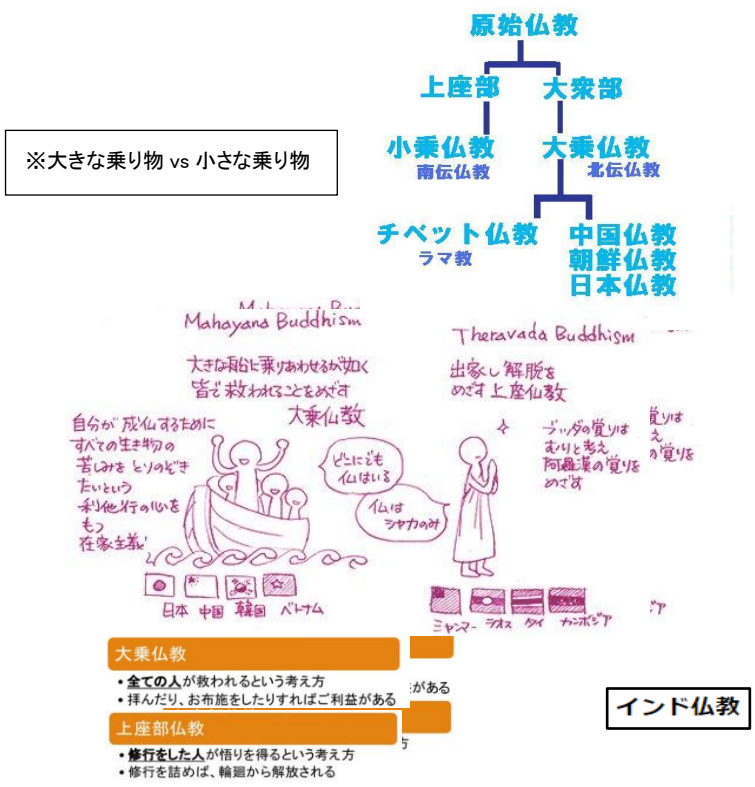


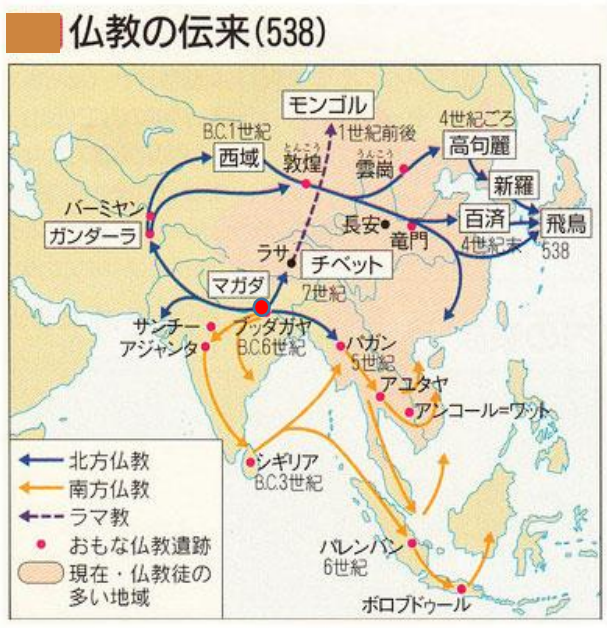
※仏教とは真理を悟り智慧を完成することによって涅槃を得ることである

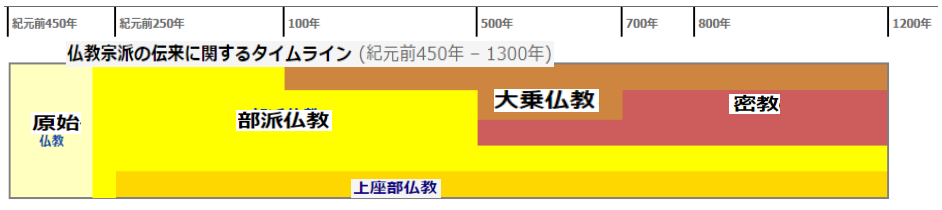
仏教は、「人間が妄執悩まされ、業を作っているのはなぜか、自我に固執しているからである。しかし、一切が苦しみである。一切のものは移り変わる、無常である。いかなるものも我ならざるものである。我に非ず、そういう理を悟って正しい智慧を完成したならば、妄執を断ずることができる、何となればこのような認識を得たならば、もはや何ものかを、我あるいわわがものであると執着して追求することがない・・・」こういう立場です。真理を知れば、その知識に反することを人はしなくなる、』いわゆる一種の主知(知性)主義ですね・・・中村元。

年代		般若心経の仏教略史
		世界四大聖人　BC552 孔子　BC469 ソクラテス
	原始仏教	仏陀 buddha ブッダとは(真理を悟った人)（覚醒した・目覚めた人)という意味。
		(佛)とは、人間ならざるものと云う意味→中国人がこういう字を創った。
BC5 世紀	（初期仏教）	釈迦(種族)／釈尊(釈迦族の尊者)(特定の個人)／(姓は)ゴーダマ(個人名)シッダタ
		インド人かネパール人か不明　BC463 年頃生誕　29 才出家→35 才悟り→80 才入滅
		アショーカ王(BC268-232)の仏塔碑文により釈尊が実在人物であると証明された。
	部派仏教	初期仏教教団の根本分裂によって上座部と大衆部が生じ、
	（長老仏教）	これがさらに分派して多くの部派が分立した時代の仏教を総称する。
	（小乗仏教）	中国、日本においては、小乗仏教という呼び方が定着した。
	上座部派仏教	「上座」　とはサンガ内で尊敬される比丘のことで、「長老」とも漢訳される。
	（南伝仏教）	古い仏教各派(部派仏教)のひとつで、伝統的な出家を中心とする宗派。
		イエスキリスト誕生(AC4年)
1-2 世紀	大乗仏教	般若経典(大般若経 600 巻)　★ 2-3 世紀ごろ　**般若心経**　あらわれる
	（宗教改革）	法華経典(経王といわれるもの)妙法蓮華経
	（北伝仏教）	浄土経典(無量寿経・阿弥陀経)南無阿弥陀仏
		仏教が中国に伝わる(1世紀ごろ)
4世紀	密教	部派仏教が阿羅漢の果を優先的に説き、
		大乗仏教が膨大な時間(三阿僧祇劫)を費やすことによる成仏を説くのに対して、
		密教は老若男女を問わず今世(この世)における成仏である「即身成仏」を説く。
6世紀		百済から仏教伝来(538)
		聖徳太子(574-622)
	遣隋使	(600-618)5回
7世紀	三蔵法師玄奘★	インド求法の旅(629-645)大唐西域記(西遊記)
		入唐した「道昭」が玄奘に師事(653)
	遣唐使	(630-894)12～20 回説
		天台宗日本伝来・最澄(806)
		真言密教日本伝来・空海(806)
		源信・往生要集著す(942)
12世紀	鎌倉時代	日本独特の形で根を下ろした仏教
		日本で咲いた仏教
（日本の宗教改革）		法然・浄土宗開く(1175)
		親鸞・浄土真宗開く(1247)唯円・歎異抄(1288)
		日蓮・日蓮宗開く(1253)
		インド仏教の衰退から消滅へ(1175-1203)
		キリスト教日本伝来(1549)
17世紀	江戸時代	寺請制度・檀家制度
19世紀	明治維新	廃仏毀釈(1868)
21世紀	昭和平成令和	★ 薬師寺写経勧進、四国巡礼









付録

日本語訳「マンガ般若心経入門」蔡志忠 （台湾）

釈尊は舎利子に言われた。
「舎利子よ、この世に存在する物質や現象には実体がないのだ。
お前も、お前の心も、お前の心にうかぶ意志も、
みなつかのまの現象であり実体がないのだ」
「このようなこの世の存在を空と呼ぼう」
「そしてお前が見聞きする対象物すべてを色と呼ぼう」
「感覚、知覚、判断、意識、観念というお前の精神活動も、すべて空なのだ」
「禍福美醜善悪などは、お前自身の見方に過ぎない」
「自分の狭いものの見方にとらわれず物事を見よ」
「そうすれば、もはや自分などない。時間も空間もない」
「水に入れた砂糖のように、形は消えるが水は甘くなる。水と砂糖の区別はなくなる」
「かたよった見方をしなければ、物事を区別する心も生まれない」
「無明（真理に暗いこと）もないし」
「無明によって生ずる苦悩もない」
「生の意義は自我を捨てて生きることにある」
「そうすれば、老いや死を思い煩うこともなくなる」
「小乗仏教では言う、人生は苦しい。苦の原因を探せ。その原因を除けば苦は滅する。
そのためには修業がある」「この四段階の真理を、苦・集・滅・道という」
「だが、生は絶対なものではなく、生死はめぐるものなのだということを理解したなら、
生老病死を悩むこともない」「そうしたら、苦集滅道も、もはや問題ではなくなる」
（これが大乗仏教なのだ）
「このような真理を悟った者を智慧者だと思うか？」
「だが悟りや智慧さえも存在しないものなのだ」
「そのようなものに対する執着すら智慧者にはあってはならないのだ」
「もしあったら、そのようなものはまだ智慧者とは呼べぬからなのだ」
「あるいは、この真理に届けば、得るところ大だと思うかもしれない」
「だが、利己心がないので得るということもないのだ」
「何ものにも執着しない者は、すべてをありのままに受け入れ、
心が安らかなので妄想もなく、自我がないから偏見もない」
「恐怖も欲望も幻想もない。物事をさかさやななめにとらえることもない」
「過去、現在、未来の三世におられる諸仏は、このような智慧の完成により、
最高の悟りを開かれたものである」
「智慧の完成こそが偉大であり大いなる悟りである」
「智慧の完成は執着から生まれたあらゆる妄想や苦しみを除くものである。
これこそが真実であり誰もが実践できることである」
「彼岸に渡ろうとしている人を励まそう」
「往く者よ、彼岸に往く者よ！」
「彼岸に渡れ、彼岸に渡れ！」
「彼岸にいたれば幸多し！」